#1 出会う前は、どんな自分だったか？

幼少の頃より、身体が弱いと母に言われ続けていて、自分でもそうだと思って過ごしていました。着せられる服も花柄など乙女チックなモノが似合うと言われて、よく着せられていました。一方では、男勝りな一面があり、男の子とやりあったり、大学生の頃は、モダンバレエに目覚めて必死に練習する毎日でした。しかし、自分で好きに生きられるリミットが差し迫っていて、このままカンパニーメンバーになれたとしても焦りや苛立ちなど葛藤があり、ダンスを辞めてしまいました。母からは 25 歳までに結婚するよう言われ続けていたので、何の疑いもなく結婚し、子育てをしながら過ごしていました。結婚生活というか、子育ての中ではたくさんの苦労がありました。上手くいかなくなる人間関係や、生活苦もあり、いつも体調が悪く、誘われて出かけるランチなども、具合が悪くなったり下したり･･･本当に私は身体が弱いんだと本気で思っていましたね。

貯金が大好きな家庭で育ったからか、貯金のために我慢を頑張るようなところもあったり、挫折したこともあったからか、「自分にはできない」という思考を証明するようなところがあったと思います。周囲から言われることにもあまり疑問を持たなかったですし、あとは人に頼ることがすごく苦手でした。
もう慢性的に体調不良。人に合わせなきゃ！と思っていたところも強くて、自分の意見も引っ込めてしまったり、とにかく今思うと自分ではなかったですね（笑）

#2 出会いのきっかけはなに？

友紀さんとは、3 年くらい前に息子が通っていた小学校の PTA 主催の保護者向けの講演会で会いました。
その時は「子供に対するアプローチはその子の器の種類や大きさによって違う」という内容など、とても印象的で面白かったです。
その日は、いつものように体調が優れないというか、もう慢性的に体調不良で、できるだけ人には会いたくないし、どうせ学校の講演なんてたいしたことないと思っていて、半ば本当に仕方なく出席していました。
自分ではそんなつもりはなかったのですが、講演がはじまったとき、斜に構えて座っていて印象悪かったようです私（笑）
でも、話が進むにつれて、どんどん前のめりになって聞き入っている自分がいました。
「なにこれ！こんな話は聞いたことない！」「おもしろい！」「もっと聞きたい！」とワクワクした記憶があります。自分ではそんなつもりはありませんでしたが、話の最中にでっかい声で「そうなんだ～」とか「え！じゃあそれってこういうことなのかね」とか周囲の人に話しかけて、友紀さんがその度に答えてくれて（笑）

あまりに当時気になっていたこととシンクロするのでうるさくなってしまっていたら、「あなた講演が終わったら教えてあげるからね」と言われたほどでした。
で、講演後にいろいろな情報を下さって、その何日か後に現在のエントラストフィールドが主催する数秘術ワークショップに参加しました。

貯金が大事で、そんなものにお金を使うなんて自分でも信じられませんでしたが、その時はなぜだかわからないけれど、エイッと参加してみたんです。人にも会いたくないと思っていた私がです。銀座にまで行った…。そのワークショップでも私、めちゃくちゃうるさかったそうで、友紀さんが私の席の後ろに立ってフォローしてくれていました。

実は手相にハマっていた時期だったので、手相の道で生きようとしていましたが、数秘を知ることで占いの深さにのめり込んで、その後はカラーラセピーの学びを経て心理学にも興味を持ちました。

#3 出会ってからどんな変化がありましたか？

まず、いい意味で「自分を疑うこと」や「疑問を持つこと」を教えてもらいました。「自分の中の当たり前は本当に当たり前でいいのか？」ということを、いつも見つめ返したように思います。
それでも上手くできないときは、答えを与えるのではなく、自分で考えられるようなヒントをポソッという…。ディズニー映画の「モアナと伝説の七つの海」に出てくるおばあさんみたいなんです。決して答えはくれない。どの道を選択しようとも反対もしない。でもしっかり見ている。
うなだれて弱っているときは優しく、自分ではわからないけれど甘えているときはライオンのお母さんみたいにドンっと突き放す。

そして友紀さんはよく「どうせ大丈夫！」という信念を持つことと言いますが、最初の頃は意味不明でした。私からしたらなんだか怪しい（笑）
それでもその体験をさせてくれたように思います。
一番の体験になったのは、ダンサーを復活させたことでした。
これもその当時は無茶なことを言い出したと、冗談にとらえていたのですが、ベストセラー作家さんやその道のプロがそれぞれ「私のわたしに還る道」というキーワードで、お話しされたり、実技を見せたりするイベントで、「晴子踊って～」というのです。
ちょうど少し前に、ダンスに対する情熱を見ないふりしてきた自分に気が付いたばかりで、運動不足解消という目的で近所のダンス教室に通い始めた頃でした。
それをいきなり、6 か月後のイベントで踊れと言い出し、「この人本当に頭イカれてらっしゃる」と思いましたよ。冗談にもとれるような言い方だけど、半分本気っぽい。
「いやいや無理ですよ～」と断ってはみたものの、時間がたつにつれて、踊ってる自分を想像すると鳥肌がとまらなくなる自分がいて…なぜか振付を考えているんです。

でも思考では、無理だ！と言っているし、大混乱でしたが、いいタイミングで「踊れるよ上手くなくていい。何かあったら責任はわたしがとるから、とにかく今の自分をダンスで表現したらいい」と言われて、ドキドキしながら決意しました。
「もうどうにでもなれ！」とやけっぱちでしたが、心の奥はまさに踊っていました。
当日、約 2 分半くらいだったと思いますが、驚くくらいに楽しく踊る自分がいました。
観客のみなさんからは、「感動して涙が出た」と帰り際に声をかけていただいたりして、それはもう「やってよかった！」と細胞レベルで思いました。
友紀さんは恐ろしい人ですよ（笑）どうせ大丈夫！っていう信念を持つ人は、こんな世界に住んでいるんだと改めて驚きました。
でも、私自身その後、あれよあれよという間に、ダンスの先生になってしまいました。
ダンスの世界の当たり前では、到底説明のつかない出来事だと思います。
若い頃、しかもかなり遅めのダンサーデビューをして、5 年くらいの経験しかない状態でダンスを辞めて、ただの主婦だった、いつも体調の悪い私が、健康のために始めたダンスくらいの意識なのに、アシスタントとして雇ってもらい、他の教室からもオファーをいただき、今ではダンスでお金をいただけるようになっているのですから。

友紀さんとの出会いから今まで 3 年くらいは、人生で一番のアドベンチャー期でした。できないと思い込んでいたことを、できるに変えていくことができた。
それはいつのどんなときも、友紀さんが鏡となって私の奥深くを映し出してくれていたからだと気が付きました。イラっとすることもあるけれど、それは自分自身に対してだったし、必ず「大丈夫」なようになるんだと、わかってきちゃった 3 年でした。
理由なんてわからないし、理論で説明なんてできないけれど、それがあっていいし「当たり前なんだ・この地球で生きる楽しみ方なんだ」と思えるようになっています。

私が変化したことで、周囲も変わっていきました。子供たちももちろん、主人や友人も、どんどん変化していって、愚痴ばっかりだった人生はどこへいったのだろうと思います。
あと、お金の流れも変わりましたよ。お金に対して不安や恐れがあったから貯金だったけれど、必要なときには必ず入ってくるし、やりたいと思ったことに使っても全く生活苦にならない（笑）本当に「どうせ大丈夫」なんだなと実感しています。

あ、それと、着る服がものすごく変化しました。花柄とか乙女チックな服ではなく、どこかやんちゃなイメージの服に変わりました。それも、友紀さんからのアドバイスで「晴子はこんな服が似合うんだよ～」と言われ、ものすごい半信半疑でというか「いや似合わんだろ」と内心思いつつ着てみた服が、それはそれは「似合う」（笑）　「ただの主婦なんで恥ずかしい」という気持ちもあったりしましたが、自分の中身と外見が一致する感覚があって、「あ～わたしやんちゃでいいんだ」と心から思いましたね。
ファッションコンサルまでしちゃう友紀さん…　ね！　恐ろしい人だと思いません？？（笑）

#4 どんな人に友紀さんという刺激をオススメしますか？

とにかく人生を変えたい！と思っている人。でもどうしていいのかわからないから、動けないでいる人。どうやっていったらいいのかなんて答えは持たなくてよくて、ただ「変わるんだ！」と意志を持って友紀さんという刺激を使えば、必ず「どうせ大丈夫」な世界に変わっていくと思います。成功が決まっているからではなく、過程を楽しむことがいいのかな？と思います。